

企業・地域における健康経営推進の加速に向けて

国際標準 ウェルビーイングISO

「ISO25554 : Wellbeing」

令和6年12月19日

一般社団法人 社会的健康戦略研究所

代表理事 浅野 健一郎

日本提案で、ウェルビーイングの国際規格を発行



PRESS RELEASE
研究成果発表

2024 年 12 月 9 日

国立研究開発法人 産業技術総合研究所／一般社団法人 社会的健康戦略研究所／一般財団法人 日本規格協会

ウェルビーイング重視社会への転換を促す国際規格 ISO 25554 が発行

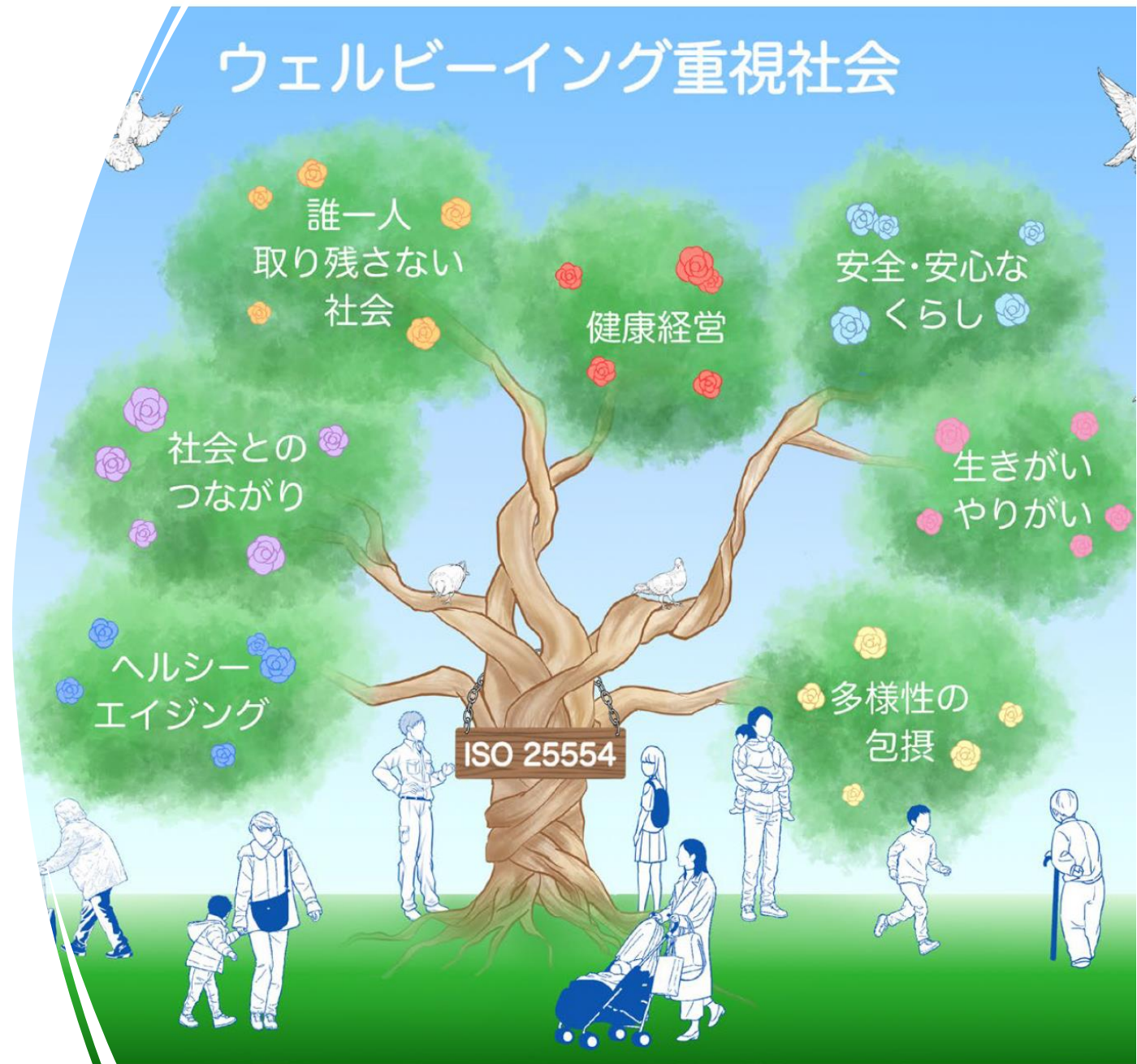
高齢化先進国の日本から、世界の地域や企業等で使えるガイドラインを提案

ポイント

- 課題先進国である日本ならではの視点で構築された健康経営のエッセンスを抽出し、組織におけるウェルビーイングを推進するための枠組みを示すガイドラインを日本主導で開発・発行
- 多様な組織で活用できるウェルビーイング推進方法を体系化
- 国際規格に沿って地域・企業などがウェルビーイングの推進に取り組むことで、ウェルビーイング重視社会の実現へ

ウェルビーイングISO (ISO25554) のポイント

- 日本の健康経営の手法を基本フレーム
- あらゆる国の組織・団体・集団に適応可能
- 個人と集団のウェルビーイング向上活動に関するガイドライン



ISO FDIS 25554 — Ageing Society — Guidelines for Promoting Wellbeing in Communities

地域や企業等でウェルビーイングを促進するためのガイドライン

ISO 国際標準化機構

TC 314 Ageing Society 高齢社会技術委員会(Technical Committee)

WG 4 Wellbeing ウェルビーイング作業部会

Convenor Dr Hiroshi Sato (議長) Secretary Ms Yukiko Mizuno (幹事、日本規格協会)

2021年から日本主導で議論開始 2024年11月12日刊行



産業技術総合研究所 佐藤洋氏資料を一部改変

https://webdesk.jsa.or.jp/books/W11M0090/index/?bunsyo_id=ISO+25554%3A2024



Standards

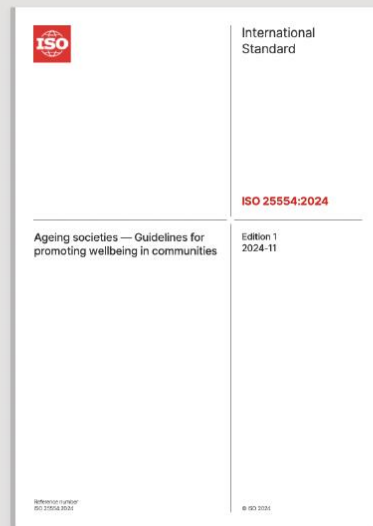
Sectors

About ISO

Insights & news

Taking part

Store



Read sample

ISO 25554:2024

Ageing societies — Guidelines for promoting wellbeing in communities

Published (Edition 1, 2024)

https://webdesk.jsa.or.jp/books/W11M0090/index/?bunsyo_id=ISO+25554%3A2024

 JSA GROUPとは

規格・書籍・物品

セミナー・説明会・SQ大会

QC検定

規格

1 NEWS TOPICS

工業標準化法改正に伴うJIS規格名称変更のお知らせ(2020年6月22日更新)

規格・書籍・物品

すべて

規格番号【半角】(例: Q9001)、標題

検索する

詳細検索する

JSA GROUP Webdesk > 規格・書籍・物品 >
ISO 25554:2024 高齢化社会—地域や企業等でウェルビーイングを推進するためのガイドライン

規格が見つからない場合はこちら

ISO 25554:2024
高齢化社会—地域や企業等でウェルビーイングを推進するためのガイドライン
Ageing societies -- Guidelines for promoting wellbeing in communities

発行年月日: 2024-11-12
状態: 有効
邦訳版: 無

英語
19ページ

25,542 円(税込)
本体価格: 23,220円

電子 PDF CU

邦訳

産業技術総合研究所 佐藤洋氏資料を一部改変

一般社団法人 社会的健康戦略研究所

5

ISO FDIS 25554 — Ageing Society — Guidelines for Promoting Wellbeing in Communities

この標準の特徴

1. ウェルビーイングとは何か、という定義は一切しない
2. 個人と集団のウェルビーイングをリーダーが自分で決める
3. 持続的にウェルビーイングを向上させる仕組みを提示し宣言する

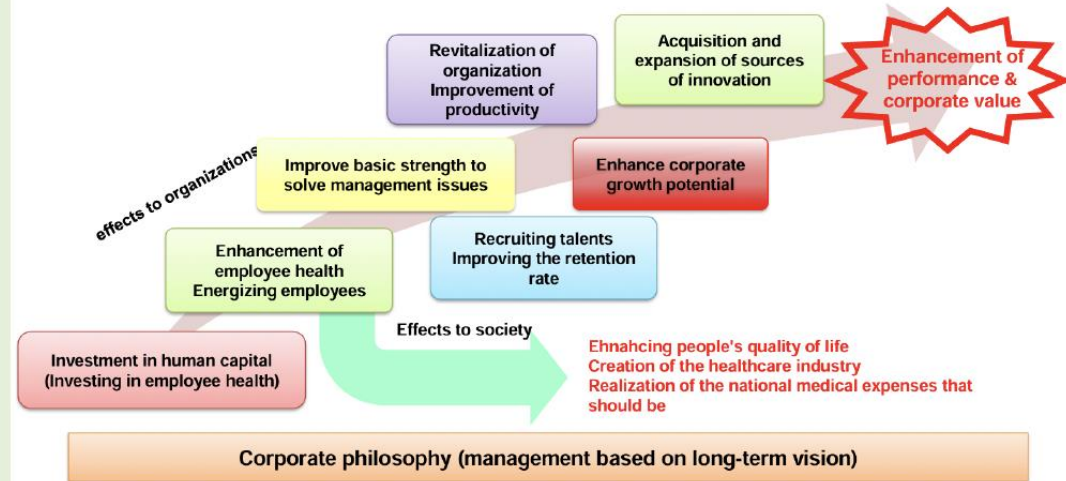
ウェルビーイング促進に標準化を適用

日本がルールメーカーとなりウェルビーイング促進によるソーシャルグッドを生み出す

健康経営の国際的普及によるウェルビーイングな就労環境の普及と生産性向上の両立

Healthy Agingを実現し尊厳ある生活を可能とする社会の実現

- H&PM refers to the strategic efforts to maintain and promote the health of employees, understanding they are **investments** to enhance the profitability, etc. from the view point of **business management**.



[healthandproductivitymanagement.pdf \(meti.go.jp\)](http://healthandproductivitymanagement.pdf(meti.go.jp))

WHO: Healthy Agingとは、人々が生涯を通じて、その人らしく、その人が大切にしていることができるような**環境と機会**をつくることである。誰もがHealthy Agingを経験することができる。多くの高齢者は、1つ以上の健康上の問題をもつが、**うまくコントロール(Functional Abilitiesが維持されていれば)**されていれば、ウェルビーイングにほとんど影響を与えないからである。

TC 314 国内対策委員会
委員長：山田 肇先生
事務局：日本規格協会

日本代表
を派遣

ISO/TC 314 Ageing Societies

各グループへ
エキスパートを派遣

ISO/TC314 Ageing Societies の構造

※ WG 4, WG 5は日本提案で
設立されたWG

【各作業部会に共通する事項を審議するグループ】

- TCG 1 (Terminology coordination group)
- TG 1 (Strategic advisory group)
- TG 2 (Communications)
- TG 3 (Metrics)

【規格を作成する作業部会】

- WG 4 (Wellbeing)
- WG 6 (Digital inclusive)
- WG 7 (Smart multigenerational neighbourhoods)
- WG 8 (Care)
- JWG 1: Joint ISO/TC 314 – IEC/SyC AAL:
Ageing-inclusive living in smart homes

【担当規格が発行されたため解散した作業部会】

- WG 1(Ageing workforce)
- WG 2 (Dementia inclusive)
- WG 3 (Carer inclusive)
- WG 5 (Home care)

参加国

Participating members (26)	Observing members (17)
Australia	Argentina
Austria	Belgium
Barbados	Brazil
Canada	Cyprus
China	Czech Republic
Finland	Denmark
France	Ecuador
Germany	India
Iran, Islamic Republic of	Malaysia
Ireland	Netherlands
Israel	New Zealand
Italy	Peru
Japan	Senegal
Korea, Republic of	Serbia
Norway	Slovakia
Philippines	Spain
Portugal	Viet Nam
Singapore	
Slovenia	
Sweden	
Switzerland	
Thailand	
Uganda	
United Kingdom	
United States	

Contents

- Foreword, Introduction 御経。Introductionは思いを込めてコンセプトを（拘束力ゼロ）
- 1 Scope いつも一字一句議論します
- 2 Normative references 欠かすことのできない引用規格
- 3 Terms and definitions ここが標準として一番大事
- 4 Framework for realizing wellbeing concept ここがこのwellbeing標準の肝です
- 5 Responsibilities of a community リーダ不在だと回らないので役割の概要を期待を込めて記述
- Informative Annexはあくまでも参考です。強い規格ではNormativeとして附属書に本文と同じ効力をもたせます。実は政治的に活用する部分です。
- Annex A (informative) Examples of promoting and managing wellbeing
- Annex B (informative) Example of wellbeing promotion policy in companies — Japanese “Health and productivity management (Kenko-keiei)”
- Annex C (informative) Examples of elements that relate to wellbeing
- Annex D (Informative) Utilization of information technology in the framework for wellbeing promotion
- Bibliography 欠かすことのできない参考文献

4 Framework for realizing wellbeing concept

4.1 General

4.2 Developing wellbeing concept and defining expected outcomes for a community and its members

4.3 Preparing an evaluation scheme

4.3.1 Defining the wellbeing performance index of an individual member

4.3.2 Defining the wellbeing performance index of a community

4.3.3 Identifying the indicators of a member

4.3.4 Identifying the indicators of a community

ここにある手順通りにフレームワークを運営します

4.4 Designing and providing wellbeing services

4.5 Evaluating the wellbeing performance index

4.6 Reviewing the wellbeing performance index against expected outcomes

4.7 Adjusting wellbeing services and wellbeing performance index

出発点 (仮説)



(理想) となりたい！

そのためには

(具体的) を実現したい！

実現に近づくためには

(現状) を知りたい！

現状を知るためには

(状態) を測りたい！

状態を良くするためには

(モノ・コト) をしたい！



人々が豊かに暮らせる持続可能な社会の創造へ

～経済的发展と社会的課題の解決が両立される社会の実現～

そして夢と希望を持てる未来が輝く社会を

次世代に受け継いでい続けられる社会へ・・・

ご清聴ありがとうございました

「確立された秩序（社会・文化・常識）というものは、どこまでも恣意的なシステムでありながら、どこまでも自然に見える」

ピエール・ブルデュー